

23. 夏秋トマトの栄養診断における葉柄汁液中の硝酸濃度の部位別比較

福島県農業試験場農芸化学部・平成11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 野菜—トマト—作物栄養

03—04—12000000

2 担当者 増子誉子・川島俊和

3 要 旨

トマトの栄養診断において測定部位を統一し、データの整合性を図る目的で、葉柄における硝酸濃度の部位別の推移を調査した。

(1) 診断に用いる果房直下の葉柄は、同一葉内でも採取する部位(基部、中部、先端部)によって硝酸濃度は異なり、先端部 $\geq$ 中部 $>$ 基部の傾向が認められ、基部の硝酸濃度は平均で中側の約2割程度低くなった。

(2) 葉柄の採取部位別に、各段位ごとに追肥の有無で比較すると、中部や基部の方が先端部より硝酸濃度の差は大きく、追肥の効果が明確であった。

(3) 以上のことから、栄養診断で用いる葉柄の採取部位は、樹体の硝酸濃度の変化を反映しやすい、中部や基部側の小葉葉柄が適していると考えられた。

4 主な参考文献・資料

なし